

# 心豊かな校区の子供たちの育成を目指して

－保・小連携における仲間づくり活動を通して－

－宮市立浅井南小学校

<連携園：浅井保育園>

## 1 実践のねらい

- (1) 「仲間づくりサミット」を通して、保育園・小学校と地域が積極的に連携をとり、協働して児童や園児の健全な成長を促す。
- (2) 児童と園児が地域で触れ合う活動を意図的に設定し、自己肯定感を高めるとともに、相手を思いやることのできる「心豊かな」校区の子供の育成を図る。
- (3) 地域の方と一緒に取り組む活動を通して、地域の支えの大きさに気づかせ、自らが地域のかげがえのない一員である自覚を高め、地域に積極的に関わっていこうとする子供の育成を図る。



【仲間づくりサミット】

## 2 実践の内容

- (1) 児童と園児が地域で触れ合い、互いが相手を思いやる活動

### ア 3年生：ヤゴのプレゼント（6月）

近隣在住でビオトープに詳しい方をゲストティーチャーに招き、本校のプールで児童が「ヤゴ救出作戦」を行い、そのヤゴを園児にプレゼントした。救出後に、児童がトンボの名前やヤゴの食べ物、飼い方などを調べ、プレゼント時に園児に教えた。保育園では、その後、「ヤゴ屋さん」を開き、迎えに来た保護者の方々に、児童から教えてもらった飼い方などを得意げに話していた。地域の方と児童・園児の交流が、保育園内や保護者へと広がりを見せた。



【ヤゴのプレゼント】

### イ 6年生：絵手紙交流（7月）

近隣在住で絵手紙に詳しい方を講師に招き、児童が伝統文化体験で学んだ絵手紙を、園児たちのためにつくってプレゼントしたいと考えた。そこで、児童が園児に絵手紙を教えながら一緒にかく「絵手紙交流会」を企画した。事前に夏野菜の絵の輪郭だけをかき、交流会では、夏野菜の色を一緒に塗る体験をした。児童は園児に優しく声をかけたり、色の作り方を教えたりしながら笑顔で交流することができた。最後には、園児のために児童がかいた花を題材にした絵手紙もプレゼントすることができた。保育園では、その後、園児が自分たちだけでもかきたいと意欲を見せたため、絵手紙をかき、作品展で展示した。作品展では、保育園・小学校・地域の関係者が園児の感性豊かな作品を鑑賞した。



【絵手紙交流】

## (2) 地域の人々との交流から、地域を知り、地域の一員としての気持ちを高める活動

### ア 2年生：芋掘り体験（10月）

本校の卒業生で、農業を営んでいる方のお世話になり、地域の畑で園児と一緒にサツマイモを収穫した。収穫したサツマイモの一部を園児にプレゼントした。その後、地域の方を招いて「サツマイモパーティー」を開催し、大変喜ばれた。12月には、サツマイモのつるで作ったクリスマスリースを、園児・同窓会の方にプレゼントした。

### イ 4年生：菊のプレゼント（11月）

8月に、浅井町の菊友会の皆さんに菊の苗の植え方・肥料のやり方などを教えていただき、児童の「菊作り」が始まった。9月には園児たちに育てている菊の様子を見に来てもらい、児童はどんな菊を育てているかななどを説明した。11月には、今まで育ててきた菊を保育園にプレゼントしに行った。さらに、児童は招待状を園児に渡した後、「一人一鉢で育てた菊を見に来てほしい」と声をかけ、小学校へ招待した。自分の菊の前に園児を連れて行き、大きく咲き誇った菊を見せながら、楽しく話をすることができた。この菊は、地域の浅井町文化祭や一宮菊花大会でも展示した。小学校・保育園・地域の方からねぎらいと称賛の声を多くかけられた子供たちは、大きな達成感を味わうことができた。



【菊作り】

### ウ 1年生：昔遊び（12月）

地域の方をゲストティーチャーに招き、昔遊びを教えていただいた。その後、児童は保育園で「お手玉」「ビー玉」「紙飛行機」を園児に教える交流を行い、一緒に楽しんだ。「保育園の子を笑顔にしよう」という目当てをたて、優しく声をかけたり、園児に合わせて遊び方を変える工夫をしたりする姿が見られた。2月の一日入学体験に向けて、「もっと保育園の子に優しくして、楽しんでもらえるように考えていきたい」という意欲の高まりが見られた。



【昔遊び】

### エ 5年生：仲間づくりサミット・活動のまとめ発表（1月）

1月に、最後の「仲間づくりサミット」を、児童が中心となって企画・運営し、1年間の活動のまとめを発表した。園児・地域の方に楽しんでもらえるよう計画・準備した催物を一緒になって楽しむ姿から、年間を通して育んできた、地域への感謝や園児への思いやりの気持ちが感じられた。



【催物の運営】

## 3 実践の成果と課題

児童と園児が触れ合う活動を通して、相手を思いやる気持ちを高めることができた。また、地域の人々と一緒に活動する体験を通して、地域の支えの大きさを知るとともに、児童自らがその一員としてかけがえのない存在であるという自覚をもてるようになった。そして、こうした活動の中で、園児や地域の方の笑顔を見た児童は、さらに交流を深めていこうという意欲を高めることができた。

今後も、保育園や地域の方との連携をより推進し、強固にしていき、地域の中で主体的に活動できる場を意図的に設定しながら、地域の一員であることの自覚を高めるとともに、他を思いやることのできる心豊かな子供の育成を目指していきたい。